

アウトリーチ報告

担当者：沼田 栗実

● 目的:

HIV/エイズに関する問題について、イベントなどを通じ、「考える」「知る」きっかけを提供する。

● 経過:

- ① 2022 年度も引き続き、新型コロナウイルス(COVID-19)感染症の影響を受け、定例で参加していたイベントへの参加ができないものもあり、ブース出展が1回しかできなかった。
- ② さっぽろレインボープライドには、2年振りにブース出展ができ資料やコンドームの配布だけではなく、「コンドームおよび性に関するアンケート」を実施した。
またブースでは、SCORA 北海道の学生さんがボランティアで協力してくださった。
- ③ ブース出展では、オーガニックハードローション、Findom(指用のコンドーム)を企業様よりご提供いただき、配布した。また、トリップスキン(オーラルセックス用コンドーム)も購入し、ブースで配布した。コンドームもサイズ別、素材別など、種類があることを情報発信し、自分にあったコンドームや方法を考えるきっかけづくりの時間を持てた。
- ④ イベントでのブース出展だけではなく、ラジオを通じて、HIV/エイズについての正しい知識など情報を提供・発信する事ができた。
- ⑤ 札幌市主催「ゲイ・バイ男性向け 即日 HIV 検査」の広報と相談員派遣を行うことができた。
- ⑥ 2022 年度も引き続き、MSM ALL JAPAN の研究(ゆうそう検査キットの配布事業)に協力できた。
- ⑦ 世界エイズデー札幌実行委員会主催の企画に参加することができた。
- ⑧ さっぽろレインボープライド実行委員会、SCORA 北海道、にじいろほっかいどう、世界エイズデー札幌実行委員会、にじいろスマイル、ピンクリボン in Sapporo 等、他団体と共に活動できた。

● 結果・効果: 実施イベント等

- ① イベントについては以下の通り、参加・協力した。

日付	参加イベント・参加スタッフ人数等
2022 年 5月3日(火) 5月10日(火)	にじいろスマイルラジオ@三角山放送局 5月6日はゴムの日! HIVの予防や検査についてのおはなし。 スタッフ参加1名
2022 年 9月17日(土)	さっぽろレインボープライド ブース出展 スタッフ参加 4名(当日まで準備も含む)
2022 年 9月25日(日)	札幌市ゲイ・バイ男性向けエイズ検査会協力 (広報・相談員派遣) スタッフ 2名(相談員1名 準備手伝い1名)
2022 年 8月~10月	厚生労働省研究班(MSM ALL JAPAN)の「ゆうそう検査」検査キット配布協力(一部業務委託) MSM ALL JAPAN のメンバー「にじいろほっかいどう」と協同で実施。当会は、8/28(日)室蘭、9/3(土)・4(日)札幌、9/10(土)・11(日)函館、10/1(土)・2(日)旭川を担当。他、にじいろほっかいどう担当分も含め 北海道内で224名に配布。 スタッフ参加 3名
2022 年 11月~12月	世界エイズデー札幌実行委員会企画への協力 ① ラジオ出演 スタッフ参加1名

	11/26(土)「Knock on the Rainbow」@STV ラジオ
②	ラジオでの広報 スタッフ参加 1名
	11/15(火)「にじいろスマイルラジオ」@三角山放送局
	11/22(火)「にじいろスマイルラジオ」@三角山放送局
	11/24(木)「ピンクリボン in Sapporo」@三角山放送局
③	レッドリボンスタディー 協力 スタッフ参加 1名

- ② その他、イベント参加・ラジオでの発信というアウトリーチだけではなく、さっぽろレインボープライドでは公式 HP にバナー広告を掲載することで、情報発信することができた。
また、イベント時には、広報 T シャツを着用し、ブース対応等を行うことで、情報発信することができた。
- ③ 厚生労働省研究班(MSM ALL JAPAN)の「ゆうそう検査」検査キット配布協力では、札幌市外に住むスタッフに協力いただいた。
2022 年度全体を通して、事務局以外のスタッフやヘルプスタッフと一緒に活動ができた。

● 課題:

2022 年度も引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらの活動となり、ブース出展においては、以前までつながりのあった北海道医療大学大学祭「九十九祭」への出展は難しく、「さっぽろレインボープライド」のブース出展のみとなった。

ブース出展の回数は、コロナ禍前に比べると減りましたが、ラジオを通して、HIV について伝える機会をたくさん持つことができた。

例年、世界エイズデーイベントの広報としてラジオ出演し、イベントの広報だけではなく、HIV の情報を発信してきたが、2021 年度に続き 2022 年度においても、12 月 1 日にエイズデーに限らず、5 月にも情報発信ができ、年間通じて、情報を発信していくことができた。各ラジオ出演をつないでくださり、分かりやすく伝えてくれたスタッフに、この場を借りて感謝いたします。

今後もラジオ等のメディア配信は引き続き行い、また、オンライン配信(SNSや Youtube 等)等、新しい形でのアウトリーチ活動を検討していく必要がある。

2022 年度も引き続き、にじいろほっかいどうと協力でき、研究班の事業にも取り組めた。これは、新型コロナウイルス感染症の影響で、全国的にも保健所での検査数および検査機会が減少している中で、ゆうそう検査キットの配布を協力できたことは、検査機会の提供として、大きな活動だと考える。

この事業は、一部業務委託として、研究班からスタッフ対し謝礼金をいただいている。前年度に引き続き、研究班の事業に協力いただいたスタッフのみに、交通費以外に謝礼金の一部から手当をお支払いしているので、平等性に欠けないよう、手当基準を見直し、安定的に手当を支払えるようにしていくことが課題であると考えます。引き続き、どのように資金を捻出していくか、アウトリーチ担当と事務局を中心に検討していきたい。

様々な要因が絡み、活動が制限される中ではあるが、HIV/AIDS について基礎的な知識だけではなく、最新情報を含め HIV/AIDS について理解を深められるよう、今後も色々な形で情報発信をしていきたい。